

「農地・農業用施設の今昔」

紙芝居の舞台となった農地・農業用施設の今

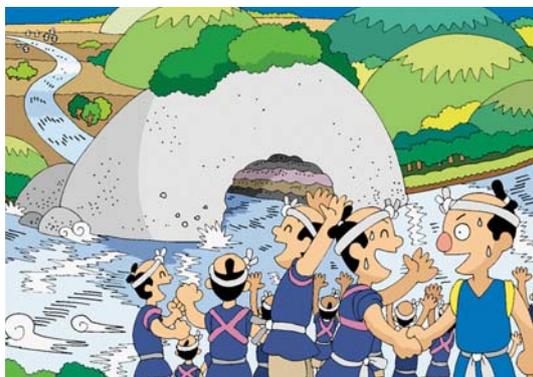
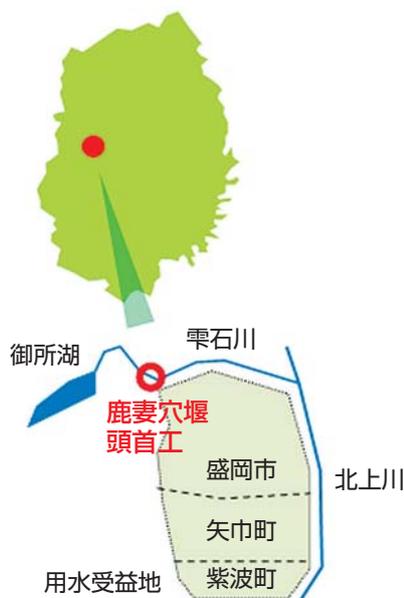
■盛岡広域振興局農政部農村整備室・県南広域振興局農政部北上農村整備センター

今回も先月号に引き続き、「農業農村整備紙芝居※1」の舞台となった農地や農業用施設の今をご紹介します。

※1「農業農村整備紙芝居」とは、郷土の先人達が築き上げてきた農地や農業用水の開発の歴史を、次代を担う子どもたちに伝え、ふるさとへの愛着心や施設への愛護心を持ってもらうこと、県農林水産部で平成12年から制作しているもの。

1 鹿妻穴堰頭首工（盛岡市）

鹿妻穴堰頭首工は、盛岡市の西部、御所湖から雫石川の約3km下流にある農業用水の取水口で、盛岡市の太田、本宮、飯岡の地域のほか、矢巾町、紫波町にまたがる約5,000haの農地に用水を供給する重要な施設です。



農業農村整備紙芝居『**甚六の用水路**』は、今から約400年前、南部藩の殿様の命を受けた**「鎌津田甚六」**が幾多の苦勞を乗り越えて「**鹿妻穴堰**」を造り上げたお話です。



鹿妻穴堰頭首工は現在、鹿妻穴堰土地改良区が管理しています。土地改良区と地域住民や団体、企業等が締結した**アドプト協定**※2により、頭首工を含めた近隣の水路、公園などの清掃や緑化活動には地域が一丸となって取り組んでいます。

当時の盛岡や紫波地方の北上川西岸は、平らで広大な土地でしたが、用水を引くことができず荒地地となっていました。金山師だった**甚六**は、洪水が起りやすく、流れの強い雫石川から安定して用水を引くため、川から突き出た**「剣長根の岩山」**に穴を掘ることを考えました。そして、硬い岩山の掘削や、大雨による工事の中断などの苦勞を、村人と一丸となって乗り越え、幅約2m、長さ約12mの穴を約2年で掘り上げました。

このほか、小学校生を対象に施設見学会や勉強会を開催し、鹿妻穴堰の歴史や農業用水利施設の役割、水や農業の大切さを、次世代に伝えていきます。

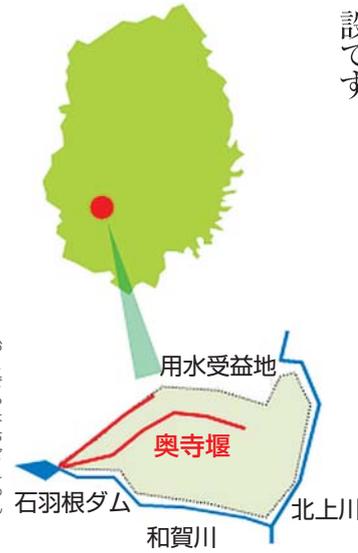
その後、用水路が盛岡市の鹿妻のあたりまで延ばされ、荒地地は次々と豊かな水田に変わっていきました。

また、頭首工の周辺には、鎌津田甚六を祀る鹿妻神社をはじめ、水辺公園や遊歩道、産地直売所、テニス、アーチェリーなどが楽しめる太田スポーツセンターなどがあり、地域の人々が集まる交流スポットとなっています。

このように、鹿妻穴堰頭首工は、地域の発展の象徴として、また、地域住民の安らぎの場、集いの場として親しまれています。

2 奥寺堰 (北上市)

奥寺堰は、北上市と花巻市にまたがる地域に位置する全長約53kmの用水路で、約4,000haの農地に用水を供給する重要な施設です。



農業農村整備紙芝居『奥寺八左エ門物語』は、今から約350年前、南部藩士だった「奥寺八左エ門定恒」が、幾多の苦勞を乗り越えて「奥寺堰」を造り上げたお話です。当時この地域（藤根・笹間・飯豊）は、



開発が行われず、人が住めないような広々とした荒野でした。この地を開墾するため、奥寺八左エ門定恒は、南部の殿様に許可を得て、和賀川から取水する水路の工事に着手しました。

しかし、地形が緩やかであったため、水がうまく下流に流れず、幾度も工事が失敗に終わります。困り果てていた八左エ門は、ある夜、夢を見ます。八左エ門の前に真っ白なキツネが現れ、こう言いました。「私の足跡に従い、連理の樹のあるところを取水口とし、足跡のとおり掘ればきつと水は流れるだろう。」

このお告げのとおり工事を進め、約9年の歳月をかけ、約20kmの用水路を造り上げました。その後、さらに約8kmの用水路を造り上げ、これら2つの用水路により約760haの水田が切り開かれました。

また、奥寺堰が出来たことにより、田を起こすためにたくさんの方が集まり、住みつくようになりました。奥寺堰は、農業と工業がともに盛んな現在の北上市の繁栄の基礎を築いた、歴史上も重要な施設となっています。



神社に祀られている白狐（上の写真）。また、奥寺八左エ門神社では毎年8月には、夢に現れた白狐（右の写真）を祀る。奥寺八左エ門神社では毎年8月には、夢に現れた白狐（右の写真）を祀る。



奥寺堰は現在、岩手中部土地改良区が管理しています。土地改良区とアドプト協定※2を締結した地元自治会や企業や、農地・水・環境保全向上対策※3の活動組織が草刈りを行うなど、地域が一体となった維持管理が行われています。

奥寺八左エ門と奥寺堰の歴史は、市内の小学校の社会副読本に取り入れられています。ですが、平成18年12月には、農林水産省から「疏水百選」に認定され、これを機に土地改良区は、平成19年度から「水土里の路疏水百選ウォーキングin奥寺堰」と題したウォーキング大会を毎年開催しています。6回目となる今年は、7月21日（土）に約150人が参加し、奥寺堰や美しい農村景観をゆっくり眺めながらウォーキングを楽しみました。

このように、奥寺堰は、地域の発展の歴史を後生に伝える施設として、また農家のみならず地域住民等の交流の場として、親しまれています。

※2「アドプト協定」とは

水路等の公共施設を「養子」とみなして、住民等が里親となり、養子となった施設を保守管理していく制度。

※3「農地・水・環境保全対策」とは

地域共同による農地、農業用水、農村環境の保全活動の取組。

●このページに関するお問い合わせ
岩手県農林水産部農村計画課・農村建設課
Tel019-629-5674 / Fax019-629-5679 / E-mail:AF0006@pref.iwate.jp